

第4回岐阜県議会定例会にて
山県市が長年取り組んできました
全国に誇る事のできる歯と口腔の健康づくり、
フッ化物洗口事業について
提案をさせて頂きました。



平成27年 第4回 一般質問(2) 岐阜県議会定例会

gifu kengikai teireikai

歯と口腔の健康づくりと フッ化物洗口の普及について

フッ化物洗口の更なる普及に向けた取り組みについて



元気な「歯」って
いいよね！

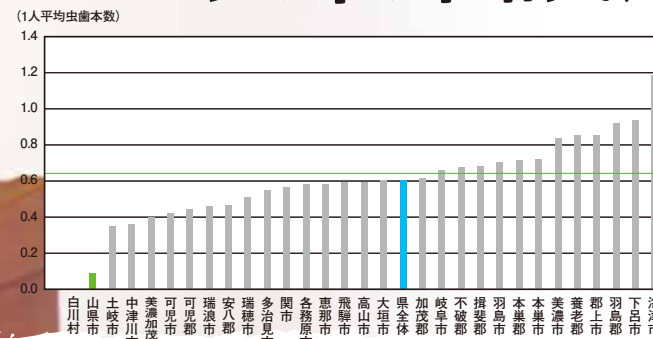
Q 岐阜県はDMFT指数(12歳までに虫歯を経験した本数)が0.6と新潟県と共に全国で虫歯の一番少ない県です。平成14年度からスタートした歯・口腔の健康づくり計画に始まり、平成25年度からは『第2期岐阜県・口腔の健康づくり計画』などを通じて積極的に歯と口腔の健康づくりに取り組んできました。

岐阜県歯科医師会を始め、各市町村や教育委員会、学校関係者、保護者の方々が協力し歯磨き指導や歯科検診、フッ化物を利用した取り組みを、学校での歯科保健教育などを通じて実施し、子どもの虫歯予防に積極的に取り組んできた結果です。

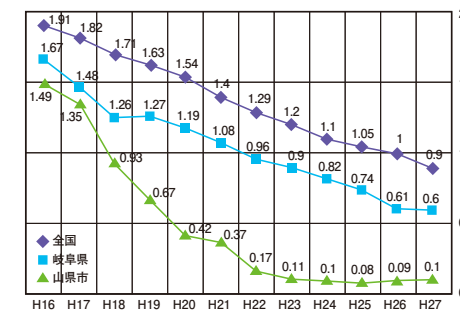
虫歯予防のためのフッ化物の利用については予防効果が高く、安全であることが科学的・学術的にも確認されて以降、フッ化物洗口の取り組みが全国的に普及し、山県市でも10年以上前から取り組まれています。

又、山県市は全国から見本とされる虫歯の少ない自治体です。これまで山県市では行政、教育委員会、歯科医師会にて山県市に腔保健協議会を組織して歯科保健を担ってきました。平成15年に厚生労働省から『フッ化物洗口のガイドライン』が出された事を契機に安全で確実に虫歯を減らせるとした医学的な裏付の下、平成16年度からフッ化物洗口が開始されました。山県歯科医師会の献身的な取り組みにより、これまでの5年間は常にDMFT指数が0.1前後を達成しており、フッ化物洗口を始める前と比較して虫歯18分の1まで減少し、全校平均の10分1まで虫歯を減らす事に成功しました。

この山県市のフッ化物洗口事業を中心とした歯と口腔の健康づくりを県内全域に普及させて、どの地域に生まれ、育った子どもたちでも、虫歯が少なく成長できる環境を築くため提案させて頂きました。



平成26年度岐阜県郡市別12歳児1人平均虫歯本数



12歳児1人当たり永久歯う虫歯本数 (DMFT指数)の推移比較(全国は抽出値、岐阜県・山県市は全数値)(27年岐阜県値は抽出値)

A 岐阜県では県歯科医師会と連携し、フッ化物洗口を新たに導入する学校等にフッ化物製剤を無償で提供するほか、学校関係者等を対象とした研修会を地域ごとに開催し、フッ化物洗口が安全かつ効果的に実施されるよう支援を行ってきました。

これらの取り組みにより、フッ化物洗口を実施する市町村は着実に増えており、現在34の市町村において実施されております。

今後は未実施の市町村に県の歯科医師や歯科衛生士が直接出向き、フッ化物洗口の効果や実施方法を説明するほか、先行して実施して市町村の取り組みやノウハウを情報提供するなどより、実施を指導してまいります。

又、既に実施している市町村についても更に幼児から小学生、中学生まで切れ目なく実施して頂けるよう働きかけてまいります。

その後改善 歯と口腔の健康づくりとフッ化物洗口の普及について一般質問で取り上げさせて頂き、多くの自治体で、より一層の普及に向けて確かな進歩がみられました。安全性とより一層の普及への前向きな姿勢を岐阜県が示して頂いた結果が力強い後押しとなりました。

Q 学校現場において、歯科保健教育を一層推進していく事に関して、今後の取り組みを教育長にお尋ね致します。

A 県教育委員会では、歯科保健推進中学校を指定し、学校歯科医の協力を得て、生徒に歯磨き方法の工夫・実践とその結果の評価を繰り返し指導しています。その結果、推進校では口腔の状態が良好な生徒の割合が県平均より大きく上回るという成果が得られています。

今後は推進校の取り組みを『学校歯科保健研究大会』等で県内の中学校に普及してまいります。